

15号
2018.8.30

Aa [ei,ei]

「自然や環境」のことに触れたいなったり、
ライフスタイルを考えたりするヒントが
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。

CONTENTS

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.1
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ポン
・全国運河サミット in 尼崎2018が
開催されます！
・尼崎スポーツの森 国際公認プールに
「新スタート台」導入！
- ◆尼崎物語 vol.3
「公害問題から環境学習へ」
- ◆尼崎の海への恩返し
～ネイチャークラブの運河の
命の循環の取り組み～
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり？」



【環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン】2018年8月30日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amashin.or.jp/>

個人限定

ど好評につき取扱期間延長

毎月1万円
契約期間2年

育てる苗木で育つ預金
定額積立定期預金

どんぐりの木

き

当金庫が取組む「あましん緑のプロジェクト」にご賛同いただき、「苗木の里親」として尼崎の森中央緑地に植樹する「苗木2本」を、商品契約期間(2年)の間、育てていただきます。満期後、当金庫主催の植樹祭にて「育てた苗木を植樹いただく」環境保全商品です。

お取扱い期間 平成30年6月1日～平成30年10月31日(第8回目)

第6回：平成28年6月1日～10月31日 第7回：平成29年6月1日～10月31日

第8回：平成30年6月1日～10月31日 第9回：平成31年6月3日～10月31日(2019年)

- 1.新規ご契約時に「花の種」をプレゼント
- 2.満期時にはエコグッズをプレゼント

※満期時のプレゼントは、当初ご契約いただいた本商品の目標積立額の掛込が終了されたお客さまに限ります。



「あましん」環境活動 NEWS

平成30年6月2日(土)に尼崎の森中央緑地において、当金庫役員とその家族で「あましん活動の森」の除草・間伐活動を実施致しました。「尼崎21世紀の森づくり」の一環として、例年開催している「あましん植樹祭」でお客さまと植樹した苗木をしっかりと育てていく為の活動です。例年参加者も増え、今年は過去最多人数の約1,100名での実施となりました。今回は間伐後の木材を有効活用することを見据えて、玉切りにするところまでを役職員の手で行ないました。森の成長に合わせて、当金庫の「森づくり」活動も年々進化しております。当金庫では苗木を「植える」、「育てる」ということはもちろん、「活用する」ことも視野に入れて森づくりを今後も続けていきます。



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。

尼崎信用金庫
AMASHIN
<http://www.amashin.co.jp>



あましん 検索



21世紀の森で生まれた「あまピヨ」が、森を出て足時の森の仲間を紹介するよ!

あまピヨ

鳥とナンテンの妖精。木の実と仲間を探して21世紀の森を守る。性格:おっとりさん 大人好し

巣箱の設置と観察会

手作り 巣箱に 野鳥が 棲んだ!?



昨年8月、「森の自由研究フェス」に出店した「巣箱づくり体験教室」で、子供達が作った巣箱の設置と観察会をおこないました!



設置の会

取り付けは、今年の2月と3月に2回に分けて行い、合計6組の家族が参加してくれました。巣箱は21世紀の森に1個、元浜緑地公園に6個取り付けました。

野鳥はいるかな!? 観察の会

同年6月3日に観察会を開催し、巣箱を設置してくれた3組の家族が参加しました。

元浜緑地公園で観察し、取り付けた巣箱6個のうち、なんと5個の巣箱でシジュウカラとスズメが営巣した様子が観察できました!



巣箱で学んだ 命の大切さって?

今回の観察会で、小学生たちは自分が作った巣箱に野鳥が営巣し、雛がかえるという体験をすることができました。しかし一方でガラスやヘビが巣箱を壊し、卵や雛を食べてしまつという辛い現実も目の当たりにしました。また、スズメが営巣した巣箱には、人間が捨てたゴミが巣材として使われていたことがわかり、鳥たちに悪い影響を及ぼしていることもわかりました。

観察会に参加してくれた子供達に

感想を聞いたところ、前向きな意見がたくさん出ました。巣箱を作り、取り付け、観察して、まだ小さな子供達にとっては難しいことが多い中、この活動を通して命の尊さを伝えることが出来ました。

私たちも今回初めて教える立場に立ち、様々なことが新たに学べました。何度作っても何度みても新たな発見や学びのある巣箱づくり。この活動を続けていきます。そしてたくさんの子供達に自分で作る難しさや命の出会いの場を作っていきます。



天敵の存在や、人間が与える悪い影響などを知ることで、「どう他の生き物と共に生きていけるか」を少しでも考える機会になったのではないかと思います。

子供たちの感想

楽しかった!

自分の作った巣箱に入ってくれて嬉しかった!

またやりたい!

新しい仲間を発見! あまピヨの出会い!!



ボクはあまピヨ! 鳥とナンテンの妖精なんだよ。普段は21世紀の森に棲んでるんだけど、巣箱からすごいエネルギーを感じてここまできちゃった! ボクはいろんな木の実と仲間を探してるんだけど、一緒にさがしてくれないかい?

来年もみんな一緒に!



告知

森の会議にて (2019年1月開催予定)

〈巣箱教室主催〉 あまん樹 nikonico25@gmail.com

〈協力〉NPO 尼崎21世紀の森 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F http://ama21mori.net/



【尼崎物語】 未来と過去をつなぐ旅

vol.3 公害問題から環境学習へ



今年の11月、全国運河サミットが、尼崎で開催されます。詳しい内容はこれからですが、尼崎運河で活動している生徒たちの研究発表も予定されています。

その一つ、小田高校の研究は本当にハイレベル。今年はヨシの生育やヘドロができる仕組みを探ることで、運河の環境再生に取り組んでいるそうです。

彼らが活躍している運河の水質浄化施設は、生物の力を利用して水を浄化しようという世界初の実験施設。運河の水が、二枚貝が生息する水槽や、藻の生えたるぐるぐる長い水路を通る過程で、自然に浄化されていきます。ここでは高校生だけでなく、尼崎の小学生・中

2000年頃から尼崎で環境学習を行なってきた中岡さんは、公害というどうしても原因があつて悪者がある、その追求で終わらずに、この場をどうやってよくするか考えるのが環境学習、と語ってくださいました。環境に優しいものづくりをテーマに課外学習を始めると、子どもたち

その後、法律の整備と技術の進歩から高度経済成長期の公害は徐々に収束し、80年代には公害に代わって、環境という言葉が注目されるようになります。この変化は、国による公害病患者の新たな認定の打ち切りという側面を持ちつつも、地球環境という、より広い視点への展開でした。

学生も環境について学んでいます。一方70年代、尼崎の小学校では「水質汚染・大気汚染・騒音」から課題を選び、工場や市役所に行つて取材、研究するという授業があつたそうです。尼崎の子どもたちにとって、公害問題がより身近だつたことに驚きます。学習指導要領に「公害学習」が加わつた頃の話です。

歴史を知らないともた戻ると中岡さん。今も経済活動の現役である運河では、環境と公害、その両方を知ることが出来ます。サミットをきっかけに、もっと多くの人に運河に来てもらえるようになればと思います。



【尼崎21世紀の森・情報・交流コーナー】

あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。



県政150周年にあたる今年、全国運河サミットを尼崎運河で開催します。運河の環境再生や利活用に取り組み、全国各地の皆さんとともに、運河を活用したまちづくりの未来を考えます。

11月16日(金)~17日(土)

全国運河サミットin 尼崎2018



11月16日(金) 13:30~16:45

シンポジウム

【場所】 尼崎リサーチ・インキュベーションセンター(AIRC/エリック) <http://airc-ama.co.jp/>

【テーマ】 『運河 マモル ツナガル』

交流イベント 17:30~19:00

【場所】 尼崎北堀運河キャナルベース

にぎわいイベント



【場所】 尼崎北堀運河キャナルベース

【イベント内容】 運河クルージング、SUP(スタンドアップパドルボード)、ヨガ、運河ウォーク、水質浄化施設見学会、運河水族館 など

15メートルスイミング記録にチャレンジ

クロール		背泳	
旧スタート台	タイム7.72秒	旧スタート台	タイム8.78秒
新スタート台	タイム6.80秒	新スタート台	タイム8.19秒

クロール、背泳共に記録が向上しました。

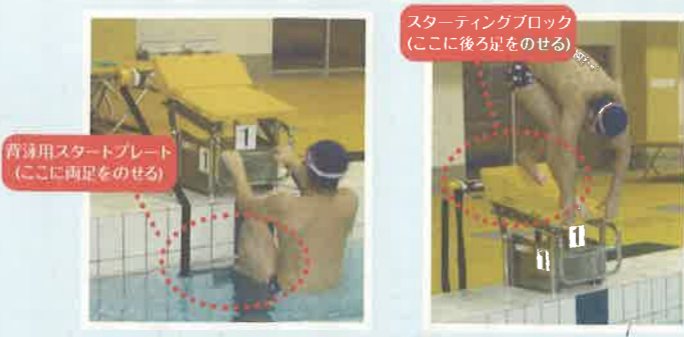
水泳選手の皆さん、ぜひ尼崎スポーツの森で記録更新にチャレンジしてみませんか。



アクアティック 中西スイミングコーチの感想

クロールでは、スターティングブロックに後ろ足をかけ蹴り出しが出来るため、初速が早くなりタイムアップ。背泳は、両足をスタートプレートに乗せるため、グリップで体を押し上げ、スタートの蹴り出しが可能になり、タイムアップ。新スタート台は、自己ベストタイム更新間違いなし。(個人差はあります。)

尼崎スポーツの森国際公認プールに最新「スターティングブロック付スタート台」が、平成30年7月導入されました。この新スタート台は、スイマーの記録向上が見込まれ、選手の記録更新が期待されます。では、旧スタート台と新スタート台でどれくらい記録が向上するのか、尼崎スポーツの森アクアティック中西スイミングコーチに比較してもらいました。



背泳用スタートプレート (ここに両足をのせる)



スターティングブロック (ここに後ろ足をのせる)



新スタート台



旧スタート台



この最新スタート台設置は、「独立行政法人日本スポーツ振興センター」のスポーツ振興くじ助成金(地方公共団体スポーツ活動助成)を受けています。

尼崎臨海部にかつての**自然環境=美しさ**を取り戻したい。
日本の**発展を支えてきた誇り**を取り戻したい。
かつてこの地に存在した**人間の活気**を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に
『**尼崎21世紀の森構想**』は、策定されました。それが尼崎市全体に
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

江戸時代
この尼崎には尼崎城という江戸幕府の直轄地であった、大坂の西の玄関口を守る重要拠点があったのをご存知ですか？

明治の初め
この瀬戸内海が「世界で最も魅力的な景観」と絶賛されていたのをご存知ですか？

明治から昭和
高度成長期の尼崎
この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか？

昭和40年代
この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか？

近年
巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷え込んでいる事をご存知ですか？

これから『**尼崎21世紀の森構想**』
かつての**自然環境=美しさ**
日本の**発展を支えてきた誇り**
人間の活気
を取り戻したい。

一緒に尼崎21世紀の森づくりをしませんか！
編集スタッフを募集しています！

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ：2018年15号(8月30日発行)
NPO尼崎21世紀の森 Aa 編集局
ホームページ http://ama21mori.net/
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三
Editor/Writers 池田 和也 幸野 里砂 森上 恒
泉原 久人 菅 真澄 藤原 悟
石井 康之 守 宏美 山本 仁湖
薄井 洋一 森井 敬介 横山知代子
太田 洋平
Designers 児玉 泰江 鳥山 大樹 ヒロコ・TG
杉本さやか 田万まどか
Print ウニスガ印刷(株)

環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。
ナカナカ素敵な計画だと思いませんか？
100年間のこの計画、進めて行けるのは、
この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

編集後記
我々が住み暮らすまち「尼崎」は、かつて海産物を陸揚げし、川を上って今日の帝へ届け、交通の要所として栄えたと聞いています。江戸時代には、城下町として栄えましたが明治維新にて城はなくなり、高度成長期には工業都市として栄えましたが公害問題によりまち構造は大きく変わるなど、時代の移り変わりに大きく変化を余儀なくされてきた歴史があります。
その様々な顔を持つこのまちを、今まさに環境モデル都市として住みやすいまちに生まれ変わろうとしているこのまちの変化を、皆様にご紹介したいそんな想いで参加させていただいております。
今後ともどうぞよろしくお願いたします。
(泉原久人)

尼崎の海への恩返し
~ネイチャークラブの運河の命の循環の取り組み~

運河の生きもの
ニ崎北堀運河の水質浄化施設は、生物の力を借りて水をうつくしくする世界初の施設です。
運河の水をくみ上げた水槽ではコウ

ネイチャークラブは、自分たちの生きる地域の環境をよりよくしていくことを目的に平成19年に結成されました。結成当初、成長中学校の生徒が中心となつて始めた巣箱づくりや観察活動は、自然環境や野生生物保護の心を育みながら、尼崎21世紀の森づくり、尼崎の川海運河の水質浄化活動へと広がっています。そしてこれらの活動を「命あるものが共生しあえるまちづくり」へと発展させてまいつとじています。

ロエンカワヒバリガイが水の濁りを除去し、水路に繁殖する藻が光合成で水に酸素を供給します。そして人口干潟のヨシが水の汚れの原因となるチッソやリンを吸収して成長してくれます。
平成27年からは徳島大学の指導を受けながら、生物の多様性を広げるために潮だまりや岩場、滞(みお)すじを作り人口干潟の改良を行ってきました。その結果、春にはメバル、ボラ、チチブ、スズキなどの稚魚が観られるようになりました。
夏には、人工干潟でスジエビやスジエビモドキがたくさん繁殖しています。昨年の秋にはウナギも観察できました。冬には、ホシハジロというカモが群

運河で体感する命の循環
ネイチャークラブ
では、「尼崎運河〇〇クラブ」や「キャナルガイドの会」の皆さんと定期的に水質浄化施設の水槽の貝や、水路の藻を回収して、雑草や枯葉と混ぜ合わせて堆肥をつくり、ヒマワリや菜の花を栽培しています。
ヒマワリは毎年行われるキャナルフェスティバルに来ていただく人たちに喜んでいただけるようにと育ててきましたが、ミツバチをはじめとする多くの昆虫が集まる場所にもなっています。
菜の花の栽培では、菜種を収穫し、油を搾り、調理に利用し、廃油はバイオディーゼル燃料に精製し、発電機や車の燃料にすることに成功しました。これらの活動を通して、私たち人間が様々な生き物の命とつながりあって「形は変わりつつも命はつながり続ける循環を体感することができます。」

運河が教えてくれること
尼崎運河は、日本の産業発展と人々の生活を支えてきた半面、自然や様々な命を育むことができない環境になっていました。しかし今では多くの人々の活動によって、人と自然が共生する美しく、楽しい場所に生まれ変わろうとしています。
運河は今人間の生きる環境のバロメーターとなつて来ています。そして命の源となる水環境に目を向け、全ての生き物が持つ命の意味を理解することができれば必ず「理想のまちの環境」を創ることができると教えてくれています。
その運河に最高の恩返しができるようにこれからもネイチャークラブの活動は続きます。

ナカオカ サダオ 中岡 植雄 (1965.03.21)
●ネイチャークラブ体験教室 研究所代表
●徳島大学 理工学部 非常勤講師
●芦屋大学 教育学部 非常勤講師